

序

東日本大震災から8年が経過した令和元年度は、未だ多くの子どもたちが避難先の学校で学習活動が続けるなど、震災に起因する課題が山積している一方で、広野町に「ふたば未来学園中学校」が開校し、併設型中高一貫教育がスタートするとともに、福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成に取り組む未来創造型の教育が展開されるなど、着実に復興への歩みを進めました。

また、これまでの本県の中高一貫教育の成果や今般の社会情勢を踏まえ、本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方についての方向性を示す「中高一貫教育後期実施計画（2019年度～2028年度）」を策定しました。

一方、令和元年10月の東日本台風（台風第19号）等により、校舎の床上浸水や断水、停電などの大きな被害が発生するとともに、多くの学校において休校を余儀なくされました。さらに、年度末には、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校の一斉臨時休業を余儀なくされた年でもありました。

このような中、県教育委員会では、「第6次福島県総合教育計画（改定版）」の後半4年間に当たる平成29年度～令和2年度の取組を加速させるため、平成29年3月に策定した「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策を推進しました。

さて、本教育年報は、令和元年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後も本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

令和2年10月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。
また、敬称は省略しています。